

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第1回欧文会誌分科会 開催日: 3月24日. 出席者: 橋口隆吉主査, ほか9名.

1. 7件の論文について審査報告がなされた.
2. 「鉄と鋼」57年2号, 3号より3件の論文につき投稿を勧誘することが決められた.

第1回講演大会分科会 開催日: 3月12日. 出席者: 草川隆次, ほか22名.

1. 概要集のあり方について
概要集小委員会の郡司委員より, 多方面からの検討結果が報告され, それに対し意見がとりかわされた. 6月末までに結論をだすべく, さらに検討を続けることになった.

2. 討論募集に関する会誌会告について
事務局原案が承認された.

第1回出版分科会 開催日: 3月4日. 出席者: 佐藤忠雄, ほか11名.

1. 「金属材料高温強度データ集」出版に関する件
特別報告書として, 一つのデータにすぎないということを示すこととし, 本会で出版することになった.
2. 特別報告書査読結果報告
いずれも出版可の旨, 報告された.
3. 「鉄鋼製造法」査読要領作成に関する件
事務局の原案を一部修正し, 査読用紙の体裁が決定された.

共同研究会

製鉄部会

第38回部会 開催日: 3月4, 5日. 出席者: 池上部会長, ほか120名.

東京神田学士会館で開催され, 議題は次のとおりである.

1. コークス比低減のための重油の多量吹込みについて

各社共, 重油多量吹込みは積極的に行なっており, 従来の40~50 kg/t-pより70~80 kg/t-pと飛躍的に増大している. その間の炉況変化, 設備上の問題点を中心に議論され, 100 kg/t-pの吹込みも夢ではなくなった.

2. 焼結鉄性状と高炉炉況との関係について

従来の冷間性状にかわつて, 熱間還元性状が多く取り上げられるようになり, 日常管理にもそれを利用して, 良好な結果を得ている.

その他, 特別講演として「最近の学振製鉄54委員会の現況について」(学振54委員会)並びに「音響による高炉炉況判定について」(住金中研)が発表された.

製鋼部会

第48回部会 開催日: 3月17, 18日. 出席者: 石原部会長, ほか101名.

I. 特別講演

大同製鋼(株)本社 岸田寿夫氏による「電炉製鋼の現状と将来」について約1hrの講演を持った.

II. 研究発表

設備(3件), 計測技術(2件), 原料と操業(10件), 造塊(5件), 脱ガス(1件), 連鑄(5件), 省力化(3件)の研究発表があり活発な質疑応答が行なわれた.

III. 工場見学

新日鉄名古屋製鉄所(製鋼, 厚板)
愛知製鋼知多工場(電気炉, 中小形)の見学を実施した.

第42回圧延理論分科会 開催日: 3月10, 11日. 出席者: 藤元主査, ほか, 42名.

1. 第1日目, 大同製鋼本社で行なわれた. 11件の論文発表があり活発な討論が行なわれた. また冷間変形抵抗の共同実験結果が紹介された.

2. 第2日目, 大同製鋼知多工場の見学会を実施した. 引き続いて幹事会を開催し, 共同実験の今後の進め方などについて協議した.

鉄鋼分析部会

第14回化学分析分科会 開催日: 3月5日. 出席者: 新見主査ほか44名.

1. 鉄鋼の化学分析

(1) Si...ISO法とJIS法の比較審議

(2) S...重量法と燃焼法の問題点の抽出・整理

ISOでの検討結果, ニダル法と比較報告
重量法の共同実験を行なう.

7種の試料を用いて15カ所で実験を行なうこととした.

(3) Mo...共同実験結果の報告およびISOでの検討結果との比較

(4) Cu...共同実験結果の報告

(5) V...ISOでの検討結果報告

自発研究を継続する.

2. 原子吸光分析

Mn, Cu, Ni, Cr, Al, Mo, Ti, V についての実験結果の報告および妨害元素とその対策についての調査結果報告

第24回鋼中非金属介在物分析分科会

開催日: 2月26日. 出席者: 成田主査, ほか14名.

1. 鋼中の炭化物抽出定量法第1回共同実験結果の報告・検討

Fe-C, Fe-Ti-C, Fe-Zr-C系の共通試料を用いた炭化物抽出定量実験の結果, 分析値の所間精度に問題があるため, Fe-C系試料について追加実験を行なうこととした.

2. パナジウム分科会依頼実験の報告

基共研V分科会よりの分析依頼試料についてまとめ

た「鋼中バナジウム化合物の定量に関する研究」報告書について報告された。

熱経済技術部会

第9回耐火物分科会 開催日：3月24日。出席者：吉田主査，ほか24名。

1. 共通議題

均熱炉レキュペレーターチューブタイルについて

2. 自由議題

- 1) 加熱炉の耐火物に関する研究
- 2) その他圧延窯炉の耐火物に関する研究
3. 今後の分科会の方針について

均熱炉レキュペレーターチューブタイルについての報告がほぼ完了したのでこれを報告書にまとめた後，分科会として今後どうするか討議した。その結果，分科会は存続させる方向でその取り上げる内容については，もう少し検討を要するという事になった。

計測部会

第30回秤量分科会 開催日：3月11，12日。出席者：中沢主査，ほか47名。

第1日目を川鉄の健保会館，第2日目を川鉄計量器工場にて行なつた。

議題の審議は原料荷揚の秤量：1件，製鉄関係の秤量：2件，製鋼関係の秤量：2件，圧延関係の秤量：3件，電子管秤量機：1件，秤量に関する改善，研究：5件，その他：1件について活発に討議を行なつた。

第2日目午後川鉄計量器工場の見学を行なつた。

設備技術部会

第5回鉄鋼設備分科会 開催日：3月11，12日。出席者：桃川主査代理，ほか88名。

I. 研究発表

- (1) ベルトコンベアプリー寸法の標準化
- (2) 大型高炉の炉体支持方式について
- (3) ヤード，焼結工場，高炉炉廻りの集塵方法の現状と開発必要問題点
- (4) 高炉炉廻りの機械化（羽口取替機）
- (5) （樋補修機）
- (6) アンロータ，スタッカ，リクレーマの自動化のテーマについてユーザー側，メーカー側両観点からの調査研究結果が発表され活発な討論がなされた。

II. 工場見学

新日鉄，釜石製鉄所を見学した。

原子力部会

第4小委員会 開催日：3月8日。出席者：森委員長ほか20名。

1. システム小委員会エネルギーバランスWGの中間報告および高温ガス炉懇談会WGの検討結果報告が行なわれた。
2. 実験ループ用熱交換器の構造について検討が行な

われた。

3. 熱伝達率向上方法としてフィンあるいはリブなどによる効果について討議された。

4. 中規模熱交換器の検討方針について次回以降に討議することになった。

原子力部会

第4回システム小委員会 開催日：3月9日。出席者：池田小委員長，ほか18名。

(1) エネルギー，および物質バランスの検討中間報告

高温ガス炉から還元鉄製造までのプロセスについてWGで検討したエネルギーおよび物質バランスの結果について報告があり，今後も検討を続けることとした。

- (2) 原子力製鉄開発スケジュールの検討
- (3) 高温ガス炉懇談会WG（科技庁）の報告
- (4) その他

標準化委員会

第17回委員会および第7回鉄鋼部会合同会議

開催日：3月9日。出席者：作井委員長，ほか25名。

ISO 鉄鋼部会

1. 国際会議出席報告
ISO/TC17/SC4 出席報告（東京）
ISO/TC17/SC12 出席報告（東京）
ISO/TC17/SC9 出席報告（パリ）
2. ISO/TC17/SC4，12 東京国際会議の会計報告ならびに余剰金の処置について討議された。
3. ISO/TC17/各 SC 国際会議への派遣会社の選定について協議された。
4. 東京国際会議の経験に基づいて作成された ISO 国際会議開催手順書が紹介された。

標準化委員会

1. 常置分科会報告
各分科会の活動報告が行なわれた。
 2. 原案分科会報告
(1) ニッケルクロム鉄合金分析方法原案分科会
審議経過報告および原案について報告が行なわれた。
(2) 機械試験方法体系調査小委員会
活動状況および審議要旨について報告が行なわれた。
 3. データーシート部会活動報告
(1) 高温引張試験分科会活動報告
高温引張試験データーシートの作成について，データー集収状況およびまとめ案作成の方針が報告された。
(2) 構造用鋼の機械的性質分科会
はた焼鋼の質量効果に関する実験経過報告があり，さらに今後の見直しについて報告が行なわれた。
 4. 昭和46年度 JIS 見直し改訂について
昭和46年度日本鉄鋼協会委託として，新規制定3件，見直し18件が紹介された。
- 第14回 ISO/TC17/SC1 分科会
開催日：3月4日。出席者：川村主査，ほか8名。
1. S 分析：高燃法に対する日本の見解を事務局へ送った。

2. Si分析：日本として共同実験を行ない，意見をまとめることとした。
3. V分析：日本での共同実験結果をもとに意見をとりまとめることとした。
4. Mo分析：日本での共同実験の結果 ISO 法は良好であるので意見をとりまとめることとした。

データシート部会

第3回高温引張試験分科会 開催日：3月3日。出席者：長谷川主査，ほか8名。

1. データーのまとめについて
データーの収集はすべて終わったので，そのまとめ方およびまとめの分担について討議した。
2. 今後の方針検討
- 4/中までに各分担会社でまとめ，次回分科会で，報告書を作成するようにした。

第2回鋼質判定試験方法分科会

開催日：3月18日。出席者：西主査，ほか21名。

1. 鋼質判定試験方法に関するアンケートのまとめ報告
JIS 規格に対する現状の問題点を，アンケートにとりそれを基にして，JIS 規格の見直しの要否，見直す場合の問題点を討議した。
その結果，JISG 0551, 0552, 0553, 0555, 0556 の見直しの要を答申することにした。
2. 今後の活動方針
今後，どのようなテーマに取り組むか討議した。

クリープ委員会

金材技研クリープデータ連絡分科会

開催日：2月22日。出席者：田中主査，ほか8名。

金材技研に46年度に着手を希望する要望鋼種については前回開催の第3回金材技研クリープデータ連絡分科会においてアンケートの結果を取りまとめ Best 5を選んだが，そのうち上位の2鋼種 SUS43HTB および U500 を採用することに決定されたので，本年は，SUS43HTB がすでに採択されている。ステンレス系ボイラ管の例もありメーカーとの仕様打合せ会はとくに行なわないこととし，U500 のみにつき仕様成分などについて製造会社の出席を願って検討した。審議した主な項目は次のとおりである。(1) 仕様成分，(2) 熱処理，(3) 形状寸法，(4) 試験条件，(5) 数量，(6) 材質，規格などである。以上の結果をもとにこの2鋼種を46年度の要望鋼種として金材技研本日の議事録を添付して要望書を提出することが決定された。なお47年度の要望鋼種の選定のための検討は本年秋頃が予定された。

試験高炉委員会

第18回委員会 開催日：2月25日。出席者：若林委員長代行，ほか12名。

熱風炉試運転結果の報告，ならびに第22次操業計画の審議が行なわれた。

1. 熱風炉試運転結果報告

高温送風を得るため，ペブル式熱風炉が建設されたがその設計チェック，性能テストを目的として試運転が行なわれ，炉内温度分布，送風温度の羽口までの変化などの測定結果が東大生研より行なわれた。羽口までの温度降下が大きく，現在改良し送風温度の上限を調査している。

2. 第22次操業計画

昭和46年第2回試験高炉委員会幹事会案をもとに，東大生研より提案されたが，実験テーマが明確でなく，第21次操業結果を検討し，改めて東大生研より提出することになった。また，操業時期は各社とも来春まで延期した方がよいという意見が多く，遅くとも来春までに行なうとし，再度検討し次回委員会に東大生研より提出することに決定した。

ジェットエンジン用耐熱合金研究委員会

第12回委員会 開催日：3月15日。出席者：中村委員長，ほか27名。

1. 幹事会報告

46年度は通産省の補助金は申請せずに，現在ある2台の新熱疲労試験機で，材料特性について研究を進めて行くことに方針が決まった旨，報告があつた。

2. 試験結果報告

ヒートチェック法，コフィン法，新熱疲労試験機の最終試験結果が報告された。

3. 今後の運営方針について

1. 熱疲労試験の報告書を4/中までに作成する。
2. 46年度の研究計画は幹事会の方針にしたがつて具体案を次回までに作成する。

鉄鋼基礎共同研究会

遅れ破壊部会

第8回部会 開催日：3月10日。出席者：藤田部会長ほか13名。

研究発表

(1) 高張力ボルトの遅れ破壊

藤田 達 (神鋼)

AISI 4340 鋼，マルエージング鋼，焼戻し鋼などの遅れ破壊と温度，強度レベル，熱処理，クラック発生などの関連を研究した成果について報告があつた。

(2) 水素による鋼の遅れ破壊の機構

藤田英一 (阪大)

遅れ破壊に関して従来提出されている理論は以下の3つに分類される。

(A) 内圧によるポイド(クラック)の拡張

(B) 吸着によるクラックの拡張

(C) 母体格子の強度低下によるクラックの拡張

このうち(B)の理論 (Petch) には誤りのあることが指摘された。

新 入 会 員 氏 名

(昭和45年12月1日~12月31日)

正 会 員
伊葉 正 トクデン溶接棒(株)
魚住 捨清 帝国通信工業(株)
川口 寅之輔 テクノ研究所
菊田 米男 大阪大学工学部
新谷 常雄 黒崎窯業(株)
寺岡 亜英 日本重化学工業(株)

早瀬 英男 横浜ゴム(株)
藤縄 勝彦 広島大学工学部
宮本 金次 三菱鉄業(株)
松矢 登美雄 大平洋金属(株)
森高 博 住友重機械工業(株)
学 生 会 員
片桐 忍 秋田大, 鉾山, 冶金

高橋 栄二 //
渡辺 晃 //
山口 秀和 富山大学工学部
東 健 //
中山 輝之 名古屋大学工学部
奈賀 正明 東北大学工学部

(昭和46年1月1日~1月31日)

正 会 員
荒川 竜男 新日本製鉄(株)本社
石川 泰 // 君津製鉄所
菊池 恒男 // //
数野 邦治 // 広島営業所
金子 国茂 // 名古屋製鉄所
長谷川 隆三 // 堺製鉄所
田中 聡吉 // //
荒川 政弘 // 光製鉄所
今西 周彦 // //
河村 久 // //
駒野 忠昭 // //
中田 潮雄 // //
川上 辰男 // 室蘭製鉄所
寺門 良二 // //
西久保 道夫 // //
橋本 俊一 (株)神戸製鋼所
山本 芳宏 // // 中央研究所
前井 保春 // //
金本 勝 // //
中尾 正和 (株)神戸製鋼所
野村 伸吾 // // 浅田基礎研究所
田中 毅 // // 加古川製鉄所
金塚 泰夫 // //
杉山 直登 // 高砂工場
田中 重明 // //
関根 奉允 // //
井田 充彦 日本鋼管(株)
石川 克己 住友金属工業(株)
桑山 則男 // 東京技術部
小沢 貞夫 日本鋼管(株)
竹花 莊治 // // 京浜製鉄所
滝島 健 // //
服部 弘志 // //
林田 道雄 // //
松村 裕 // //
山下 洋 // //
竹腰 篤尚 // //
小林 英男 // 福山製鉄所

米倉 満 // //
北沢 孝次 日立造船(株) 技術研究所
小竹 誠一 // //
高木 十三雄 // //
灰谷 政彦 // //
藤井 忠臣 // //
山口 勝 // //
山本 昇三 // //
渡辺 精三 // //
佐藤 周三 川崎製鉄(株)
水島製鉄所
齊藤 達 // //
平田 二郎 // 技術研究所
後藤 泰典 三菱製鋼(株)
森川 昭 三井造船(株)技術本部
岡野 耕三 三菱重工業(株)
森屋 和衛 三菱金属鉦業(株)
直島製錬所
矢野 光生 住友金属工業(株)
西川 富雄 // 中央技術研究所
神田 章 日新製鋼(株)
島田 隆吉 // // 阪神製造所
大久保 修 // 尼崎工場
舟崎 光則 (株)日本製鋼所
原 貞夫 // // 室蘭製作所
力 健二郎 // 広島製作所
出口 利治 愛知製鋼(株)知多工場
横溝 良雄 // //
市川 禎吾 品川白煉瓦(株)
相模工場
赤須 英夫 鉄道技術研究所
佐藤 邦弘 日本金属工業(株)
横濱工場
佐藤 博之 戸畑鉄工(株)
沢田 昭二 パプスック日立(株)
島津 正男 (株)高田製鋼所
白浜 正義 東北砂鉄鋼業(株)

進藤 順治 三星金属工業(株)
鈴木 高明 福島大学経済学部
駿河 省平 東京芝浦電気(株)
中納 和夫 太陽鉦工(株)
成瀬 亘 日本電工(株)
樋口 利幸 日本パイプ製造(株)
森山 茂樹 兵庫県立工業試験場
山口 善宣 山陽特殊製鋼(株)
米田 之雄 (株)不二越
渡部 良弘 昭和電気製鋼(株)
福田 昌弘 久保田鉄工(株)
吉村 浩 金属材料技術研究所
鈴木 栄三 鈴木金属工業(株)
鈴木 昭正 日本工業大学機械工学科

学 生 会 員

吉富 強一 愛媛大, 工, 冶金
久保田親史 芝浦工大, 工金属工学
福島 三好 鉄鋼短期大鉄鋼工学
長谷部光弘 東北大工, 金属工学
石田 清仁 // 院, 金属材料
照井 敏勝 // 選鉦製錬研究所
長谷川 博 名古屋大, 工, 鉄鋼工
岩瀬 敏典 // //
河合 健治 // //
星野 秀夫 // //
西田 公也 名古屋工業大院金属工
橋本 孝信 富山大, 工, 金属工
旅 本光 // //
内山 孝 // //
伊藤 三郎 鉄鋼短大, 鉄鋼工
有原 八郎 // //
李 泰然 朝鮮大, 工, 機械

外 国 会 員

Mr. Tze-Han Fu, Republic of China
Mr. Rassel Pierre, Belgium
Mr. Georges Jegaden, France
Mr. Leonard Watts, U.S.A.
Dr. David L. Schroeder, U.S.A.
Dr. Hans Martensson, Sweden
Mr. Samir A. EI.H.

Ibrahim, Mr. Reijo Antola, Mr. Brian Fanslow, Dr. L.K Nilsson,	England Finland U.S.A. Sweden	Mr. Chan Kye, Prof. ir. Jongenburger, Dr. William E. Dennis, Mr. D.C Hilty,	Korea Nederland U.S.A. U.S.A.	Mr. William G. Wilson, 周 德 興 朝 鮮	U.S.A.
---	--	--	--	-------------------------------------	--------

(昭和46年2月1日~2月28日)

正 会 員					
赤城 啓允	川崎製鉄(株)管理部	山辺 友行	〃 鉄鉱事業部	里見 繁	石川島播磨重工業(株)
岩村 忠昭	〃	山本 寿夫	〃 (鉄)開発部		横浜第一工場
佐藤 国浩	〃	田上 春雄	〃 神戸製鉄所	塩田 政利	旭硝子(株)高砂工場
塩川 信正	〃	坪根 巖	〃	島田 雄一	熊本工大機械工学科
前田 政和	〃	平塚 肇	〃 加古川製鉄所		講師
御厨 尚	〃	大矢 恒雄	〃 神戸製鉄所	下沢 舜伍	海外原料炭開発(株)
河西 悟郎	〃 千葉製鉄所	佐伯 寿一	〃	代田 篤	特殊製鋼(株)
片岡 健二	〃	青木 征治	日本特殊鋼(株)	高木 昌三	名大工学部金属学科
河津 信義	〃	夏目 亮三	〃	高坂 達夫	(株)東洋金属熱練工業所
菅原 実	〃	乾 勉	日立金属(株)安来工場	高野 秋喜	日本鍛工(株)
羽田 守幸	〃	山本 盈郎	〃	田口 一男	(株)小松製作所
梅只 威雄	〃 荏合工場	上平 亨	日本ステンレス(株)		技術研究所
松室 知視	〃	塚田 康義	〃 直江津製造所	田村 学	日本鋼管(株)技術研究所
齊藤 健志	〃 技術研究所	西 忠行	日新製鋼(株)		
清水 政治	〃 製鉄部	渡辺 宏	〃	千々松純夫	本田技研浜松製作所
上枝 正治	〃 新日本製鉄(株)	土谷 巖樹	〃 呉製鉄所	土井 正光	三和特殊製鋼(株)
		高橋 輝雄	〃 住友金属和歌山製鉄所	中野 恵司	金属材料技術研究所
上田 秀雄	〃 戸畑製造所	渡辺 清治	〃	長山 典右	(株)日立笠戸工場
塩塚 和秀	〃 戸畑技術部	青木 幸雄	住友金属工業(株)	橋本 義弘	住友電気工業(株)
波佐間 修	〃 八幡製鉄所		小倉製鉄所	畠山 重躬	本田技研(株)
牧 彬	〃 戸畑焼結工場	塚本 孝	〃		埼玉製作所
	〃 戸畑製造所	酒井 一夫	〃 技術管理部	浜田 年弘	三菱重工業(株)
松田 浩男	〃 君津製鉄所	高輪 武志	〃 (本社)		神戸研究所
吉村 正博	〃		システム部	飯田 凡雄	富士通研究所
天野 実	〃 製品技術研究所	藤井 悟	住友金属(株)	藤本 寛二	大鉄工業(株)
武田 欣明	〃 技術部	赤川 清	中央技術研究所	船橋 進	久保田鉄工(株)
洲沢 俊昭	〃 堺製鉄所		(株)日立製作所		中央研究所
本郷 順司	〃 釜石製鉄所	浅井 梯次	〃 亀有工場	増田喜久男	(株)小松製作所
宮崎 賢	〃 工作本部	飯島 修	〃		技術研究所
井手 英暉	(株)神戸製鋼所	三ツ泉忠男	〃	丸田 浩	帝国ピストンリング
		石田 康彦	〃 勝田工場		(株)研究部
植村 健一郎	〃 中央研究所	松尾 秀助	〃	山口浩之介	山口鋼業(株)
内田 博幸	〃	西田 修	〃 機械研究所	山口 洋	三井金属工業(株)
金本 勝	〃	青柳 政吉	久保田鉄工(株)		中央研究所
亀野 克己	〃	奥野 宗一	中央研究所	山田 一成	徳山曹達(株)技術室
小久保 一郎	〃	小口 栄一	金華機械(株)鑄造部	学 生 会 員	
小織 満	〃	賀川 直彦	国際電子工業(株)	飯久保知人	東北大, 大院, 工学研
橋本 俊一	〃	柏木 良文	日本掛釜油(株)		究科
藤原 優行	〃	勝部 泰臣	NCR(株)大磯工場	石田 英明	鉄鋼短大, 鉄鋼工学
前井 保春	〃		日本鋼管新潟電気製鉄	石松 節生	九州工大
山本 芳宏	〃	川内 正昭	所	小島 猛	名大, 工, 鉄鋼工学
菊間 征司	〃 (鉄)開発部	木村 武則	和気耐火工業(株)	渋谷 俊昌	東北大, 大院, 金属加
栗原 正男	〃 鉄鋼事業部	工藤 靖	(株)ルックジャパン		工
幸岡 強	〃 (鉄)開発部	近藤 靖彦	(株)小松製作所	白尾 明	富山大, 工, 金属工学
嶋津 真一	〃	桜井 市蔵	名古屋工業技術試験所	中垣 正敏	名工大, 工, 金属工学
竹下 秀男	〃		新日本パイプ(株)	林 昭二	名工大, 工, 〃
浜野 幹夫	〃		研究部	原 正治	名大, 工, 金属
山崎 一夫	〃			松崎 豊喜	富山大 '工, 金属工学

宮本 淳之 大阪大, 大院, 工

村上 栄一 愛媛大, 工, 冶金

渡辺 裕 東海大, 大院

(昭和46年3月1日~3月31日)

正 会 員

大野 二郎 新日鉄基礎研究所
 徳光 直樹 // //
 増田 荘一郎 新日本製鉄(株)
 名古屋製鉄所
 小田島 寿男 // 広畑製鉄所
 野村 文夫 // //
 大野 唯義 // 研究所
 笠原 明夫 住友金属(株)
 和歌山製鉄所
 吉岡 成二 // //
 田中 宗敏 // //
 陸田 彰夫 // //
 畑 義弘 // //
 国重 和俊 // 中央技術研究所
 相原 賢治 // //
 本村 裕 住友電気工業(株)
 特殊線事業部
 岡本 昇 川崎製鉄(株)
 水島製鉄所

木下 昇 // 技術研究所
 袖鳥 登明 (株)神戸製鋼所
 浅田基礎研
 池田 耕一 // 尼崎製鉄所
 太田 安彦 // //
 植木 幹雄 日本鋼管(株)
 技術研究所
 内藤 雅悟 // //
 伊藤 義典 東洋運搬機(株)
 技術研究所
 康 忠熙 朝鮮大学校
 佐々木 勇一 日立造船(株)桜島工場
 佐藤 幸保 日本鋳業(株)
 佐賀製錬所
 中川 一貞 日本重化学工業
 高岡工業所
 広瀬 之彦 松江工業高等専門学校
 弘中 常夫 特殊製鋼(株)
 技術研究所
 松村 嘉高 京大, 工, 金属加工学
 教室

宮下 滋 エッソ・スタンダード
 石油(株)
 和田 征二 関東特殊製鋼(株)
 学 生 会 員
 片桐 俊幸 日大, 大院
 灘 清和 愛媛大, 工, 冶金
 宇根 宏治 千葉工大, 大院
 島添 浩二 北海道大, 大院
 伊藤 寛治 北海道大, 大院
 川村 明 北海道大, 工, 冶金工
 学
 畠山 恵存 北海道大, 大院
 外 国 会 員
 Mr. Joseph R. Bernhardt U.S.A.
 Hamersley Iron Pty.
 Limited Australia
 Mr. Sven Westberg Sweden
 椿 鴻 森 新栄鑄造工業公司

『鉄と鋼』特集号のお知らせ

テーマ「高炉の複合送風」

本会編集委員会では、会員各位に本誌をよりよくご利用いただけるよう本年より年2回程度の特集号の発行を企画し、編集をいたしております。

今回は羽口以外の箇所からの還元ガス吹込みをも含め標記「高炉の複合送風」をテーマに下記により編集いたすことになりましたので、関連した論文あるいは技術報告をふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. テー マ 「高炉の複合送風」
2. 論文締切日 昭和 46 年 8 月 14 日 (土)
3. 発行予定 「鉄と鋼」, 第 58 年第 5 号 (昭和47年4月号)
4. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 編集課

今井勇之進教授退官記念学術講演会のお知らせ

東北大学今井勇之進教授の定年退官にあたり、記念講演会が下記により行なわれますのでお知らせいたします。

日 時：昭和 46 年 5 月 29 日 (土) 13:00~16:30

場 所：経団連会館 11 階国際会議場 (東京都千代田区大手町)

演題および講師

- | | | |
|---|-----------------|-----------------|
| 1. Contributions of Molybdenum to Steels. | Climax, Mo. Co. | Janet Z. Briggs |
| 2. 高温 (2000°C) と石油 | 呉羽化学東研所長 | 五味 真 平 |
| 3. 鋼のアーキ溶接過程での窒素吸収 | 東北大工学部教授 | 小林 卓 郎 |
| 4. 鉄鋼材料の現状と将来 | 新日鉄基礎研所長 | 大竹 正 |